

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室 1・2」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
そだちの丘 育ちサポート係 TEL 30-4410 FAX 30-4433 E-mail: sodachi.sec@matsusaka.ed.jp

冬休みに ちょっと読んでみては・・・

今年も、あとわずかとなりました。

夏休みの研修講座で、名城大学教授の曾山先生からご紹介いただいた書籍の中から、カリフォルニア州心理学会会長で臨床心理学者のトマス・ゴードン著者の「親業」という本を読みました。みなさんの中には、既にお読みになられた方もみえるかもしれませんが、子育てについて色々と考えさせられました。親と子どもの問題を解決するための方法として、3つの解決法について説いています。これは、親と子どもという関係を例にしながら述べていますが、教師と生徒という関係に置き換えても同じことが考えられる内容となっており、非常に興味深い本です。

少しだけ、中身を紹介します。

この本の中で、筆者は、親の子どもに対する態度を3つに分類しています。

- 1 「勝者型」・・・親が子どもに対する権威・権力をふるうのは当然のこととし、子どもに特定の行動を要求し、命令を下し、従順であることを期待する。常に親が勝って子どもが負けるような形で解決をはかる。
- 2 「敗者型」・・・いつも子どもに大幅な自由を許す。制限を設けることを意識的に避け、かなりの一貫性をもって「勝つのは子ども、負けるのは親」で、子どもに不満を残すのは子どもに有害であると考えて解決をはかる。
- 3 「動揺型」・・・親の中で一番多いのがこの型。1と2のやり方を適度に調和させようとして、厳格と寛容、制限と自由、勝者と敗者のはざまを揺れ動きながら解決をはかる。

みなさんは、どの型にあてはまるでしょうか。

子どもにできるだけ自由を許そうとしますが、放っておくと大変悪くなってしまいとても見ていられなくなってしまいます。このままではダメだと思い、権威をもって子どもに接しはじめますが、今度は非常に厳格になりすぎて、自分が嫌になってしまうのです。このような体験は、家庭や学校でも有りうることはないかと思えます。

家庭内や学校で、親と子ども、先生と生徒との間で問題が起こったとき、「大人が勝ち、子どもが負け」か「子どもが勝ち、大人が負け」のいずれにすべきか決めかねることが多いと言われます。この本では、「勝ち、負け」法以外の「勝者なし」法について、具体的な親や子どもの発言・場面を多く紹介しながら、対立を解くためのカギについての示唆を与えてくれています。

自分の子どもは既に成人しており、もっと早くこの本に出会えばよかったという思いでいっぱいです。この本は、教師の視点で読み解くこともできると思いますので、みなさんも一読して見ては、いかがでしょうか。

(小筆 邦昭)



研修講座報告その5～研修講座の様子をご紹介します！～

B-20 乳幼児教育Ⅱ「子ども同士の関係づくりに保育者はどうかかわるか」

講師 吉田 真理子 先生



発達段階による子どもたちの姿、子どもたち同士の関わり、おとなが介入する様子等、実際の保育の映像を交えながら「どれだけ子どもたちの主体性を育てていけるか」「特性の理解」「多面的に気づかせていく」等、大切にしたい視点を教えていただきました。

B-13 学級づくり「ハッピー教育入門～主体性&協働力を伸ばす秘訣～」

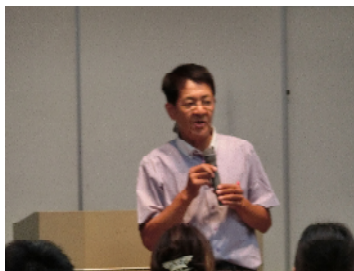
講師 金 大竜 先生

子どもたちの様子と金先生の日々の取組をうかがい、受講者がペアトークで実際に体験をしました。「なぜ？を考える」「思考を起こす」「揺らぎが大切である」等、心に響くキーワードをたくさんいただきました。



B-8 人権教育Ⅲ「子育て・人権頭の体操2017～生活つづり方からジブリの本棚まで～」

講師 大久保 幸一 先生



虎の耳のお話、食べ物やジブリのお話等、身近なことから、人権教育の大切な視点を示していただきました。また、実際の子どもの作文を紹介いただき、つづり方の手法や子どもたちにつけたい力等、具体的にご教授いただきました。

A-6 外国語活動／外国語「小学校外国語活動・外国語教育の進め方：小中連携も踏まえて」

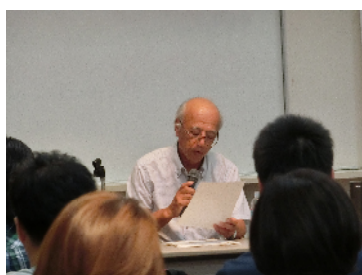
講師 泉 恵美子 先生

映像や絵本、泉先生と受講者とのやりとりを交えながら、新学習指導要領を踏まえた授業づくりについて示していただきました。小中連携の大切さや、教材や授業の進め方についての情報共有の必要性等、今後の取組について考えることができる時間となりました。



B-12 生徒指導Ⅲ「不登校児童生徒の理解とかわり」

講師 森川 泉 先生



不登校児童生徒の特徴やその発達段階に応じた関わりについて教えていただきました。クエスチョンタイムでは、受講者が日常困っていることや悩んでいることについて具体的にアドバイスをさせていただきました。